

福 井 県 医 師 会

だより

第633号 平成26年(2014)3月



アルプスの巨峰・マッターホルン

坂井地区 西野 慎吾

表紙写真説明：アルプスの巨峰・マッターホルン

坂井地区 西野 慎吾

長女夫婦の居住するスイスに、高齢になる私が、昨年9月約1週間、恐らく最後となるであろう海外旅行に出掛けました。

チューリッヒから車や電車で約4時間半でZermattに到着、一泊し、翌日ケーブルカーやロープウェイを2回乗り継いでMatterhorn glacir paradise (3838メートル) (別名 klein matterhorn) に到着し、眼前にMatterhorn (4478メートル) を眺めることができました。

当日は、寒さを予想していましたが、山頂は春のような暖かい状態で、気持ちの良い時を過ごすことができました。

## 醫 縫 録

# 坂井地区医師会会長就任にあたって

坂井地区医師会会長 大 嶋 一 英



昨年6月9日、坂井地区医師会総会において会長に選出され、就任致しました。浅学菲才の身でありながら、責任のある立場となり毎日が緊張の日々であります。金議長、奥村副会長、坂井庶務理事、伊藤会計理事をはじめ、理事諸先生方の御協力を得ながら何とか半年間過ごして参りました。私共の坂井地区医師会は、あわら市と坂井市で構成され、人口は合わせて約14万4千人で、高齢化率は約25.4%、所属する医師会員は95名です。

当医師会の活動は、地域医療に貢献することを目標に、休日在宅当番医、学校医活動、個別・集団予防接種事業、各種検診、介護認定審査会、市民健康講座への協力などの活動も行っています。しかし、特徴は何と言っても在宅医療に取り組んでいることです。前会長藤田博明先生が「醫縫録」(平成22年7月25日発行)にて詳しく紹介されていますが、改めて紹介させていただきます。2010年からは東京大学・福井県ジェロントロジー共同事業に協力し、更に2012年10月からは坂井地区介護保険広域連合が設置した在宅医療拠点事業の一部を委託される形で医療と介護の連携に積極的に取り組んでいます。

坂井地区における高齢者数は増加の一途にあり、今後訪問診療・訪問看護の利用は更に高まるものと予測され、平成37年度には平成24年度の約2倍になるものと推定されています。一方、坂井地区介護保険広域連合が平成24年度6月に実施した調査によると「在宅医療者本人又は家族が自宅で療養したい・させたい」と回答したのは8割にあがります。このような在宅医療者の思いに添った安心ある在宅医療を実践していくには、24時間何時でも対応できる在宅医療・ケア体制が必要であり、訪問看護との連携なくしてそのニーズに応えることはできません。当医師会では訪問看護ステーションを2事業所運営していますが、医師会員の利用も増加しています。また、坂井地区外の急性期基幹病院からは癌末期患者や難病患者の在宅移行が積極的になっていますが、これは当医師会の在宅医療コーディネイト事業が在宅医紹介などの役割を担っていることも大きな理由です。このような状況で安定した在宅医療を提供し続ける為には新たな担い手を育成する必要があります。

ます。平成25年度の活動として医学部学生や研修医の他に現在開業中であっても在宅医療経験の無い医師または浅い医師と多職種(特に訪問看護師)との同行訪問研修を企画しています。訪問医療を担う医師にとっては、患者急変時にスムーズに対応可能な病院との連携が重要な課題です。そこで、当医師会では地区内の各病院と夜間・緊急時の入院受付などの後方支援体制に関する協定を取り交わし、患者・家族が希望する病院への「安心連携カード」を発行・運用して、連携病院との円滑な連携を目指しています。

このように紹介すると在宅医療は順風満帆に見えますが、将来の課題が幾つか見えてきます。

その大きな課題は、マンパワーの絶対的不足であります。75歳以上の高齢者が増え、今後利用者増が考えられます。このマンパワー不足に追い打ちをかける様な課題があげられます。一つは家族介護力の低下です。独居老人の増加、老々介護の家庭などが多く見られ、地域においても地域力(=地域のまとまり)の低下が認められ、更に在宅医療を担う開業医の高齢化が進行しています。現に当医師会においても内科開業医は10年間1名のみで在宅医療を担う医師の高齢化は現実のものとなっています。しかし、地域包括ケアを支える当医師会に対しては今後も安定した在宅医療を提供していくことが求められています。

それには以下の課題克服が必要であろうと思われます。①在宅医療従事者の負担軽減、②多職種連携による効率的な医療提供、③在宅医療に従事する人材育成、④住民地域への在宅医療に関する普及啓発。これらの課題を克服する為には医師会の役割は大きく、多職種連携は元より行政機関とも連絡を密に行い、社会のニーズに合わせた医師会活動を展開していく必要性に迫られています。今後、会員諸先生方と力を合わせ、これらの課題克服の為に誠心誠意努めて参りたいと思っています。